

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 10 日

所属	会計ファイナンス 研究科	職名	教授	氏名	中村元彦
研究課題	データ標準化の進展と IT 会計帳簿及び会計監査における適用に関する研究				
研究キーワード	データ標準化、IT 会計帳簿、ISO/TC295、電子インボイス	当年度計画に対する達成度		3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した	
関連する SDGs 項目	8. 働きがいも経済成長も	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

会計ソフトのデータフォーマットは各社ごとに異なっており、会計データに関する他社も含めたビッグデータ作成は困難な状況である。但し、会計ソフトのデータ標準化に関して、会計仕訳の根拠となる証憑類の標準化も重要であり、特に DX と呼ばれるデジタルトランスフォーメーションの対応として、受注から決済までをデジタル化するという一環の動きも進んで来ており、今年度はその中でも令和 5 年 10 月に開始されるインボイス制度に関連して電子インボイス（デジタルインボイス）を中心に研究を実施した。

電子インボイス（デジタルインボイス）では、国際的に標準化された peppol に基づいており、企業内の標準化だけではなく、企業間における電子データの標準化が実現できるため、会計ソフトのデータ標準化も容易になると考えられる。

電子インボイス推進協議会の特別会員として企画の検討に参画するとともに、日本公認会計士協会第 42 回研究大会で、「社会環境等の変化への対応～税制及びユーザーとしての意識改革」（共同発表）として発表するとともに、CUC 公開講座 2021 第 5 回「電子インボイスの導入と活用」でも講演している。また、「電子帳簿保存法（電子取引）の改正が電子的監査証拠に与える影響」として、千葉商大論叢、第 59 巻第 3 号において、論文を発表している。

著書及び論文において、電子インボイス（デジタルインボイス）に関して発表することができたため、一定の成果を達成することができたが、大手監査法人を中心にヒアリングの実施、技術的な研究を進めることは新型コロナの影響もあり、今年度は実現することができなかった。このため計画に対する遅れが生じてしまっている。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

【著書・論文（査読なし）】

「電子帳簿保存法（電子取引）の改正が電子的監査証拠に与える影響」、中村元彦、単著、『千葉商大論叢』、第 59 巻第 3 号、113 頁－129 頁

「電子インボイスの導入と活用」、中村元彦、単著、『会計教育研究』、Vol.8、4 頁－9 頁

【学会発表等】

「監査における ERP 導入の諸問題」日本監査研究学会第 44 回全国大会、2021 年 9 月、岡崎一浩氏（愛知工業大学）と共同発表（オンライン開催）

「内部統制の教材としてのオープンソース ERP」、日本内部統制研究学会第 14 回年次大会、2021 年 10 月、岡崎一浩氏（愛知工業大学）と共同発表（オンライン開催）

「社会環境等の変化への対応～税制及びユーザーとしての意識改革」、日本公認会計士協会第 42 回研究大会、2021 年 9 月、（福岡、オンライン開催）

3. 主な経費

学会の全国大会（オンライン開催）の出席の経費、書籍などの文献の購入費として使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

CUC 公開講座 2021 「SDGs 達成へ 大学の役割」第 5 回 「電子インボイスの導入と活用」（2021 年 10 月）において、登壇者として講演を実施